

「モジホコリの実験 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

変形菌の中でも、特にモジホコリ (PP) の変形体は非常に食欲旺盛である。水分さえあれば、餌 (栄養源) を求めて、付近の「搜索」を続ける。この食欲の旺盛さと培養・維持が簡単なことで、モジホコリは「モデル生物」の一つとして、世界中の研究者にさまざまな生物研究に利用されている。



このまま餌を与えずに放っておくと、容器から脱出してしまうこともある。実際に蓋をしたシャーレからも「集団脱走」したことがあった。



専門家は独自に配合した「餌」を用意しているらしいが、一般には「オートミール」を使うのが一番良い。オートミールは、エンバク (燕麦) を加工した食品で、日本ではあまり馴染みがないが、欧米では主食の一つとして広く普及している。



日本でもスーパーで容易に入手できる。実はメーカーによって変形菌の「好み」があるようで、私が試した中では、ケロッグ・ブランドのオートミールを一番好んで食べてくれた。



オートミールを数粒与えると、数時間後には古い餌を見捨てて、新しい餌に向かって移動をする。モジホコリは変形体は鮮やかな黄色なので、移動の観察が非常にしやすい。これも研究に適している理由の一つだ。



新しい餌に向かう「管」は最初は広く枝分かれしているが、餌を見つけると次第に無駄な管を排除し、太い管だけを残すようになる。